

視聴覚教育

NO. 381

発行日

24. 3. 22

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

この一年の歩み

学習情報指導員 島田繁直

各学校では、多くの教科領域の授業で、50インチデジタルテレビなどのICT機器を活用した授業が進められた。大型画面に映し出された画像をくいくいに見つめる子供たち。大きく鮮明な資料により、様々な効果がみられている。子供たちが疑問をもったり、学習を追究する意欲を喚起したりする授業が展開されている。また、子供たちにより分かりやすく説明でき、知識の定着も図られてもいる。

学校のデジタル環境整備は、昨年度から2年がかりで、校内LANの敷設と地上デジタル放送の受信改善工事が進められている。今年度の職員用ノートパソコンの更新も、中学校11校であった。また、平成23年8月の岡崎市総合学習センターの開館に伴い、岡崎教育ネットワークのセンターサーバーも移設された。

コンテンツの制作という点では、今年度も大きな成果を得ることができた。全国自作視聴覚教材コンクールでは、最優秀賞である文部科学大臣賞をはじめビデオ教材2作品が入賞した。なお、今年度からは、自作視聴覚教材の制作形態が変わり、学習情報部の自主研修サークルとして「おかざき映像教材研究会」が、自作視聴覚教材の制作を始めた。学習情報主任だけでなく、教科の枠を越えた多くの先生が同好の士と

視聴覚用語

『スカイプ』

インターネットプロトコルを使った電話システム。相手の顔を見て話せる。スカイプ同士であれば、世界のどこにいても使用料金は無料。携帯電話や固定電話との通話には一定の通話料がかかる。

II 視聴覚教育あれこれ II

●平成23年度(第56回)

愛知県自作視聴覚教材コンクール

○生涯学習部門

最優秀賞(県教育長賞)

『ジャズの街 岡崎』

岡本 昌也(矢北中)

若林 祥子(矢北中)

尾崎 秀彰(矢北中)

寄田 彩日(広幡小)

11分

峯澤 泰季(岡崎小)

榊原 康博(六南小)

太田 信(六南小)

○学校教育部門

最優秀賞(県教育長賞)

『エコマンダーと探る ごみのゆくえ』

川本 祐二(美川中)

内田 雅之(井田小)

尾山 和昭(北中)

11分

笠間 大樹(根石小)

小林 憲(葵中)

優秀賞

『八丁味噌ー岡崎で受けつがれる伝統の技ー』 11分

近藤 雄一(東海中) 村田 貴志(六北中)

岩瀬 富雄(矢東小) 神野 裕美(六西小)

内藤 恵三(北野小) 後藤 真司(甲山中)

岡 秀之(東海中) 高梨 裕寿(大樹寺小)

鈴木 絢也(城北中) 杉浦 諭(額田中)

森 竜師(羽根小)

○学校教育部門 (2) コンピュータソフトウェア教材

最優秀賞(県教育長賞)

『プラスチックの性質を調べよう』

服部 将也(葵中) 鈴木 一史(大樹寺小)

鈴木 大介(大樹寺小) 森 正吉(葵中)

優良賞

『岡崎市内たんけん』

鈴木 広樹(六中小) 成瀬 正和(羽根小)

三輪 恭之(六美中) 井上 清美(夏山小)

島田 繁直(六名小)

※受賞した6作品は、自主研究サークル「おかざき映像教材研究会」が制作した教材です。

実践報告Ⅱ 筆遣いに気をつけて書く

岩津小学校 吉見 友里

書写の時間、子供たちの執筆法を見てみると筆を寝かせて書いていたり、常に穂先が画の中心を通ってしまっていたりする子がいる。硯の置き方が反対向きの子さえいる。

そこで正しい筆遣いを会得させるために、教材提示機を利用して教師の執筆法を拡大して五十インチテレビに映し出した。真上から映す手の甲で筆先を隠してしま

うため、斜め前から写した。子供たちと同じように執筆することができると、文鎮の置き方、墨の切り方、左手の押さえ方など細かいことも見せることができた。水書板より容易に子供たちの反応を見ながら書くこともできる。教材提示機の利用は、子供の意欲を高めるという点でも有効であったといえる。



また、児童が執筆する直前には、『姿勢や筆の持ち方に気を付けて書けるよう』『くまさん体操』をテレビに映して行った。『くまさん体操』とは、

書写部が作った「えんぴつつくんのうた」をより楽しく体操できるように、学級の子供たちを登場させて映像を自作した体操である。子供たちは毎回体操を楽しみにしており、体操をすることで正しい姿勢で執筆に臨むことができるので効果的であった。

Ⅱレッツ・トライⅡ 習字の手本を作ろう

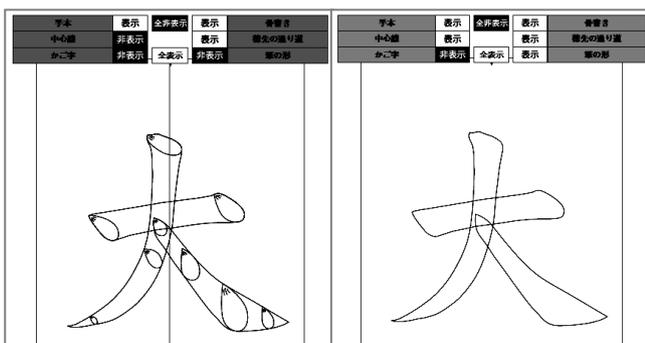
書写の教師用指導書には、毛筆半紙大資料がついており、印刷した用紙を下に敷いてなぞることで、筆遣いがわかるようになっていく。

実は、この指導書には資料編付属DVD-ROMがついている。DVD-ROMには、PDF形式で、習字の手本が収録されている。

このファイルをうまく使うことで、いろいろな種類の手本を作成することができる。中心線を入れたり筆の形を入れたりするだけでなく、様々な組み合わせで作成することが可能である。

印刷機の種類によっては、半紙に印刷できる印刷機もある。手本を印刷した半紙を子供たちに配って練習することができれば、煩わしい書写の授業が効率よく進められるであろう。このように、だれでも簡単に手本を作成することができると、子供たちの実態に合わせて使ってみてほしい。

(細川小学校 学習情報主任 小久保 優樹)



ライブフリーだよ

●2011年度KWN日本コンテスト

【チャレンジ賞】

『Copyright〜そこに込められたハート〜』

井田小学校

【絆】

『行動するのは誰のため?』

葵中学校

●第14回キューブ活用コンテスト

【優秀メディア賞】

『交流会で学校よいところ紹介』

生平小学校 2年生

●第1回「協働」実践コンテスト

【優秀賞】

『「裏山の環境」をみんなで知ろう』

稲垣たかみ(生平小学校)

●第7回著作権教育実践事例募集

【優秀賞】

『著作権利用のマナーに関する「実感を伴う」学習活動の展開』

井田小学校

【編集後記】

今年度も実践例や情報をお寄せくださりありがとうございました。お陰で多くの方に岡崎の視聴覚教育の取り組みについてお伝えできました。今年度はネットモラルについての実践が例年以上に多くありました。各校で、情報モラル教育が進んでいることが反映されていると思います。

来年度も一層の充実を図っていきます。

